

ラトビア月報

【2018年8月】



2018年（平成30年）10月発行

在ラトビア日本国大使館

<http://www.lv.emb-japan.go.jp/>

主な内容

【政治】

- ・第13回国会選挙に16の政党が立候補（P. 1）

【経済】

- ・2018年第2四半期の実質GDP成長率は5.3%（P. 2）

【外交】

- ・リガにおけるラトビア・エストニア間の共同閣議開催（P. 3）

【その他】

- ・トム・クルーズ主演の映画でラトビアの風洞製作会社を利用（P. 5）

※「ラトビア月報」は、ラトビアにおける政治・経済状況等について、ラトビア政府発表や各種報道等の公開資料（原則として該当月の月末までの情報）を取りまとめたもので、在ラトビア日本大使館の見解を述べたものではありません。月別の時事情報として御参照いただければ幸いです。

—政治—

【今月の注目記事】

◆第13回国会選挙に16の政党が立候補

8月7日、中央選挙管理委員会は第13回国会選挙に立候補する候補者リストを締め切り、16の政党が候補者リストを提出したと発表した。国会の100議席に1,470名が立候補している。立候補者の68.3%が男性であり、平均年齢は46.6歳、最年少者は21歳、最年長者は88歳、66.5%が民族をラトビア人と表明しており、27.0%は民族を表明していない。

◆政府はサマータイム制度廃止に関する公式見解を閣議決定

8月14日、サマータイム制度を廃止して、現在の夏時間を恒久的に維持するとしたラトビアの公式見解を閣議決定した。

全EU加盟国が統一してサマータイム制度を廃止し、ラトビアは現在の夏時間を基本時間とすることを支持し、サマータイム制度に関して各EU加盟国が独自の決定を行うことを支持しない。サマータイム制度に関して各EU加盟国が独自に決定した場合には、物流、通信及び運輸分野に否定的な影響を与えるリスクがあるとラトビアは考えている。ラトビアでは、1981年、ソ連内の他の共和国と同時にサマータイム制度が導入された。

◆中央選管はジュダノカ「ラトビアのロシア連合」党首の立候補を認めず

8月21日、中央選挙管理委員会はジュダノカ「ラトビアのロシア連合」党首を第13回国会選挙の候補者リストより除外することを決定した。国会選挙法によると、1991年1月13日以降にラトビア共産党で活動していた者は国会選挙への立候補が禁止されており、同氏はこれに該当すると判断された。

◆8月の政党支持率

8月23日、ラトビアの支持政党に関する2018年8月の世論調査結果が以下のとおり発表された。(民間調査会社「SKDS」が実施したもので、「明日、国会選挙が行われるとしたらどの政党に投票するか」という問いに対する回答。)

政党名	支持率(%)。括弧内は7月の値)
「調和」(最大野党：親露系)	21.5(21.4)
「緑と農民連合」(連立与党：中道右派)	11.5(12.4)
「KPV LV」(国会に議席なし)	7.5(7.0)
「ナショナル・アライアンス」(連立与党：右派)	6.1(6.8)
「新・統一」(連立与党：中道右派)	5.1(2.9)

「発展・For！」（4月に結成された政党連合）	3.1(4.4)
「新保守党」（国会に議席なし）	2.9(3.9)
「ラトビア地域連合」（野党：右派）	2.9(1.1)
「心からラトビアのために」（野党：左派）	1.8(1.9)
「ラトビアのロシア連合」（親露系, 国会に議席なし）	1.2(0.7)
（支持政党を決めていない）	23.0(-)
（投票しない）	12.0(-)

— 経済 —

【今月の注目記事】

◆2018年第2四半期の実質GDP成長率は5.3%

8月31日、中央統計局は、2018年第2四半期の名目GDPは72.8億ユーロ、実質GDP成長率（対前年同期比）は5.3%であったと発表した。部門別では、建設業（対前年同期比32%増）や情報・通信部門（16%増）など、多くの部門で成長がみられた一方で、食品製造は対前年同期比3%減となった。

◆7月の消費者物価上昇率は2.6%

8月8日、中央統計局は、2018年7月の消費者物価上昇率が対前年同月比2.6%だったと発表した（物品価格は2.4%上昇、サービス価格は3.2%上昇）。過去12か月間の平均物価上昇率は2.4%だった。部門別では、石油製品（対前年同月比20.8%）、住宅関連（4.6%）、アルコール飲料・タバコ（4.2%）などで価格の上昇が見られた一方、食料品及びノンアルコール飲料（▲11.5%）では下落が見られた。

◆2018年上半期の輸出額増加率は9%

8月16日に欧州統計局（Eurostat）が発表したデータによると、2018年上半期のラトビアの輸出額は前年同期比9%増となった。輸出額増加率の高い国は、順に、キプロス（64%）、マルタ（20%）及びギリシャ（16%）となり、エストニアは10%、リトアニアは6%であった。

◆2018年第2四半期の平均月給は1,004ユーロ

8月29日、中央統計局は、2018年第2四半期の平均月給（グロス）は対前年同期比8.4%増加し1,004ユーロとなったと発表した。業種別では、金融・保険部門（2,020ユーロ）や情報・通信部門（1,549ユーロ）の月給額が特に高かった一方、宿泊・食品サービス部門（708ユーロ）や教育部門（829ユーロ）などは平均を下回っていた。なお、手取りの平均月給（ネット）は対前年同期比で10.0%増加し、743ユーロとなった。

◆IKEAの最初の店舗がオープン

8月30日、リガ東部に家具量販店IKEAの最初の店舗がオープンした。オーナーはリトアニアとアイスランドのIKEAを所有するPaul Mason Propertiesが同店舗のオーナーであり、延床面積は34,500㎡、敷地面積は10haである。

—外交—

【今月の注目記事】

◆リガにおけるラトビア・エストニア間の共同閣議開催

8月21日、リガにある国立ラトビア図書館において、ラトビア政府及びエストニア政府は共同閣議を開催した。クチンスキス首相及びラタス・エストニア首相が議長を務め、両国間の地域協力、地域安全保障の強化及び地域エネルギー・運輸プロジェクトの共同実施等に関して協議した。

この共同閣議は、両国の建国100周年を記念して行われたものである。また、両国の内務大臣は、人口登録データを共有する政府間合意に署名した。この合意は両国の国会が批准した1か月後に発効する。

◆リンケービッチ外相のジョージア訪問

8月6日～7日の間、リンケービッチ外相は、ジョージアの主権及び領土の一体性への支持に関する結束を確認するため及び2008年8月のロシアによるジョージアへの軍事介入に関する回想行事に出席するため、ウクライナ副首相、ポーランド外相及びリトアニア外相と共にジョージアを訪問した。リンケービッチ外相はジョージアの国会で開催された持続可能な平和及び安全保障に関する円卓会議に参加したほか、オジスイ近郊にある南オセチアとの行政境界線を視察した。

また、リンケービッチ外相はマルグヴェラシヴィリ大統領、コバヒゼ国会議長、パフタゼ首相及びザルカリアニ外相と会談した。

◆ラトビアはジョージアの主権及び領土の一体性へ支持を表明

8月7日、ラトビア外務省は、ジョージアの主権及び国際的に承認されている国境による領土の一体性への支持を表明し、2008年のロシアによるジョージアへの軍事介入から10年が経過しても解決されていないアブハジア及び南オセチアの状況に懸念を表明した。

◆モラヴィエツキ・ポーランド首相の来訪

8月15日、モラヴィエツキ・ポーランド首相はラトビアを訪問し、クチンスキス首相と会談した。両者は二国間関係、安全保障問題、レール・バルティカ計画、バルト三国・大陸欧州の送電網同期化及び2021年以降のEU多年度予算等に関して協議した。

◆ハント英外相の来訪

8月15日、ハント英外相はラトビアを公式訪問し、リンケービッチ外相と会談した。両者は二国間関係、環大西洋関係、英国のEU離脱、地域安全保障及び国際情勢等に関して協議した。リンケービッチ外相は「英国は経済・貿易、安全保障・国防分野等において最も重要な国の一つであり、近い将来、EU及び英国が離脱に向けた合意に至ることを望む。」と述べた。

◆ラトビアで1991年再独立以降最大の国際軍事演習開催

8月20日～9月2日の間、ラトビア全土において、1991年の再独立以降最大規模の国際軍事演習「Namejs 2018」が行われた。ラトビア及びNATO加盟国より約1万人が同演習に参加し、イエーカブピルス及びバルミエラ等では暴動を鎮圧する訓練等も行われた。カルニンシュ・ラトビア国軍総司令官は8月22日、「演習は大きな問題なく終了したが、リエルバルデ空軍基地等のインフラを改善する必要がある。」と述べた。

◆クチンスキス首相のバルト三国・イスラエル首相会合への出席

8月24日、クチンスキス首相はリトアニアを訪問し、ラタス・エストニア首相及びスクバルネリス・リトアニア首相と共に、バルト三国・イスラエル首相会合に出席した。各国首相はテロとの闘い、バルト地域における安全保障、サイバー・セキュリティー、EU・イスラエル関係及びEU・NATO関係等に関して協議した。クチンスキス首相はEU・イスラエル間の対話の必要性に言及し、中東和平プロセスに関する多国間対話が重要であると述べた。

◆リンケービッチ外相のエネルギー安全保障に関する会議出席

8月26日、リンケービッチ外相はノルウェーのスタヴァンゲルを訪問し、ミュンヘン安全保障会議及びオフショア北海基金(Offshore Northern Seas Foundation)が開催したエネルギー安全保障に関する会議に出席した。リンケービッチ外相はノルド・ストリーム2(NS2)計画に対し、エネルギー連合の基本方針に反するとして懸念を表明し、エネルギー問題は欧州の安全保障だけでなく環大西洋関係の問題でもあると述べた。

◆リンケービッチ外相のEU非公式外務理事会出席

8月30日～31日の間、リンケービッチ外相はオーストリアを訪問し、EU非公式外務理事会出席に出席した。会合においては、環大西洋関係、EU西バルカン諸国関係及びウクライナ並びに北朝鮮等に関する国際情勢等に関して協議された。

—その他—

【今月の注目記事】

◆トム・クルーズ主演の映画でラトビアの風洞製作会社を利用

8月6日報道によると、ラトビアの風洞(wind tunnel)製作会社「Aerodium」は、2018年に制作されたトム・クルーズ主演の映画「Mission: Impossible - Fallout」の飛行シーン撮影のため、ロンドンにあるワーナー・ブラザーズのスタジオに世界最大の風洞を設置した。この風洞は6.5メートル×3.5メートルの飛行空間があり、同時に7人まで飛行することが可能であり、トム・クルーズは約1年間、同風洞での飛行訓練を行った。(実際の映画の撮影は3日間。)

なお、ジャッキー・チェンも2012年に制作された映画「Armour of God - Chinese Zodiac」の撮影でラトビアにある同社の風洞を利用している。

◆10月、ニューヨークにおける初のバルト映画祭開催

8月18日の報道によると、10月18日～21日の間、ニューヨークにおいて、初のバルト映画祭が開催され、バルト三国の映画、ドキュメンタリー及びアニメ等が上映される予定である。

以上

2018年8月の主な出来事

	【内政】	【外交】
8月	<p>7日, 第13回国会選挙の候補者名簿受付締切</p> <p>14日, サマータイム制度廃止に関する公式見解を閣議決定</p>	<p>6~7日, リンケービッチ外相ジョージア訪問</p> <p>7日, ジョージアの主権及び領土の一体性へ支持を表明</p> <p>15日, ハント英外相来訪</p> <p>15日, モラヴィエツキ・ポーランド首相来訪</p> <p>20日~9月2日, 国際軍事演習「Namejs 2018」開催</p> <p>21日, ラトビア・エストニア第1回共同閣議開催</p> <p>24日, クチンスキス首相バルト三国・イスラエル首相会合出席(リトアニア)</p> <p>26日, リンケービッチ外相エネルギー安全保障会議出席(ノルウェー)</p> <p>30~31日, リンケービッチ外相の非公式のEU外務理事会出席(オーストリア)</p>

ラトビア主要経済指標

GDP

	単位	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Q1	2018 Q2	出典
名目GDP	百万ユーロ	17,938	20,303	21,886	22,787	23,618	24,320	24,926	26,857	6,304	7,279	中央統計局
国民一人当たりGDP	ユーロ	8,553	9,861	10,762	11,321	11,843	12,300	12,721	13,855	-	-	中央統計局
GDP実質成長率	%	▲ 3.9	6.4	4.0	2.4	1.9	3.0	2.2	4.5	4.0	5.3	中央統計局

財政収支, 政府債務残高

	単位	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Q1	2018 Q2	出典
財政収支	百万ユーロ	▲ 1,558	▲ 874	▲ 264	▲ 264	▲ 352	▲ 331	15 (暫定)	▲ 131	▲ 237	▲ 368	中央統計局
財政収支対GDP比	%	▲ 8.7	▲ 4.3	▲ 1.2	▲ 1.2	▲ 1.5	▲ 1.4	0.1 (暫定)	▲ 0.5	-	-	中央統計局
政府債務残高	百万ユーロ	8,402	8,663	9,020	8,893	9,669	8,953	10,092 (暫定)	10,782	9,765	10,386	中央統計局
政府債務対GDP比	%	46.8	42.7	41.2	39.0	40.9	36.8	40.5 (暫定)	40.1	-	-	中央統計局

失業率, インフレ率, 月額平均賃金

	単位	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Q1	2018 Q2	出典
失業率(15-74歳)	%	19.5	16.2	15.0	11.9	10.8	9.9	9.6	8.7	8.2	7.7	中央統計局
インフレ率	%	▲ 1.1	4.4	2.3	0.0	0.6	0.2	0.1	2.9	2.0	2.4	中央統計局
平均賃金(グロス)	ユーロ	633	660	685	716	765	818	859	926	961	1,004	中央統計局
平均賃金(ネット)	ユーロ	450	470	488	516	560	603	631	676	712	743	中央統計局
最低賃金(月額, グロス)	ユーロ	256	285	285	285	320	360	370	380	430	430	中央統計局
世帯一人あたり可処分所得	ユーロ	286	305	320	354	387	417	437	-	-	-	中央統計局

海外直接投資(FDI)

	単位	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Q1	2018 Q2	出典
海外直接投資残高	百万ユーロ	8,184	9,360	10,258	11,570	12,415	13,543	13,456	14,370	14,911	14,838	中央銀行

貿易統計

	単位	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Q1	2018 Q2	出典
輸出(FOB)	百万ユーロ	6,680	8,535	9,871	10,021	10,249	10,363	10,358	11,500	2,893	3,067	中央統計局
輸入(CIF)	百万ユーロ	8,412	10,983	12,512	12,635	12,654	12,492	12,249	14,042	3,431	3,754	中央統計局
貿易収支	百万ユーロ	▲ 1,732	▲ 2,448	▲ 2,641	▲ 2,614	▲ 2,405	▲ 2,129	▲ 1,891	▲ 2,542	▲ 538	▲ 687	中央統計局

日・ラトビア貿易(ラトビア政府統計)

	単位	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Q1	2018 Q2	出典
日本への輸出	千ユーロ	33,634	34,792	34,615	44,091	32,989	39,592	48,524	50,526	12,168	13,659	中央統計局
日本からの輸入	千ユーロ	7,463	16,975	14,050	12,044	13,418	20,405	18,974	22,282	5,368	7,843	中央統計局
対日貿易収支	千ユーロ	26,171	17,817	20,565	32,047	19,571	19,187	29,550	28,244	6,800	5,816	中央統計局

日・ラトビア貿易(日本政府統計)

	単位	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Q1	2018 Q2	出典
ラトビアへの輸出	百万円	3,458	4,050	4,908	5,054	5,240	6,386	5,523	7,573	1,841	2,250	財務省統計
ラトビアからの輸入	百万円	4,609	4,587	8,761	6,658	6,235	7,217	9,291	8,017	2,086	2,142	財務省統計
対ラトビア貿易収支	百万円	▲ 1,151	▲ 537	▲ 3,853	▲ 1,604	▲ 995	▲ 831	▲ 3,768	▲ 444	▲ 245	108	財務省統計

両国間の訪問者数

	単位	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Q1	2018 Q2	出典
ラトビア→日本	人	875	495	807	996	1,315	1,685	2,016	2,547	577	795	日本入管統計
日本→ラトビア(宿泊統計)	人	5,428	5,843	7,322	8,988	15,606	21,575	23,191	24,576	3,948	10,476	中央統計局

(注) ラトビアは2014年1月1日ユーロを導入した。2018年9月末現在、1ユーロ=132円程度。